

## メッセージアウトライン

### ヤコブの手紙 5:10~12「ヨブの模範」

[10]「苦難と忍耐については、兄弟たち、主の御名によって語った預言者たちを模範にきなさい」

ヤコブは信仰のゆえに苦しみを受けているクリスチャンたちに向けて語っているが、ここで彼らより以前の旧約時代の主の御名によって語った預言者たちを模範にきなさいと教える。聖書には多くの預言者たちが登場してきているが、彼らは皆その信仰と預言者としての使命のゆえに苦難と忍耐の生涯を送った。イザヤ、エレミヤ、エゼキエル、ダニエル……。さらにヘブル人への手紙 11 章参照。彼らは信仰のゆえの痛みや誘惑や試練に会ったとき、この地上のものを思わず、神を信頼し、忍耐して、やがて神の与えてくださるものを待ち望んだ。そのようにして、彼らは偉大な信仰者であることをあかしして天の御国に凱旋した。

イエス・キリストを信じる信仰のゆえに苦しむ人、悩む人、迫害されている人々は、先にこのような痛みを通り、しかも忍耐をもって信仰を全うした多くの信仰者たちのことを考え、模範とする必要がある。彼らも最初は弱い普通の人であった。しかし、主を信じる信仰によって強くされたのであった。

[11]「見なさい。耐え忍んだ人たちは幸いであると、私たちは考えます。あなたがたは、ヨブの忍耐のことを聞いています。また、主が彼になさったことの結末を見たのです。主は慈愛に富み、あわれみに満ちておられる方だということです」

ヨブは旧約のヨブ記に書かれている主人公のヨブのことである。ヨブは神を信じる正しい人で非常に富み栄えていた。彼には七人の息子と三人の娘がおり、羊七千頭、らくだ三千頭、牛五百くびき、雌ろば五百頭、さらに非常に多くの召使いたちがいた。彼は東の人々の中で一番の富豪、有力者であったと言われている。→ヨブ 1:3

ところが考えられないようなことが起こり、彼はこれらすべての財産を一日で全部失ってしまったのである。その時ヨブは何をしたか。彼は地に伏して神を礼拝し、「私は裸で母の胎から出て来た。また裸で私はかしこに帰ろう。主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな」と言い、罪を犯さず、神に愚痴をこぼさなかった。→ヨブ 1:20~22

さらに今度はヨブのからだ全体に悪性のひどい腫物ができて彼を悩ませた。彼の妻は「…神をのろって死になさい」と言ったが、ヨブは「…私たちは幸いを神から受けるのだから、わざわざいをも受けなければならないではないか」と言って罪を犯すようなことを口にしなかった。→ヨブ 2:1~10 この後、ヨブの友人たちが彼を慰めに来たが、彼のひどい姿を見て、これは何かヨブが罪を犯したからこのような結果になったのではないかと議論を展開する。しかし、ヨブは、決してそうではないと情熱的に反論し、神が彼を忘れ見捨てたのではないかというような恐ろしい疑いが湧いて来た時にも、なお大胆に信じ抜いた。このようなヨブの信仰に対して神はどのように答えられたのか。→ヨブ 42 章 特

## に 10~17 節

まことに主はヨブの信仰に豊かに答えてくださり、ご自身が慈愛に富み、あわれみに満ちておられる方であることを示されたのである。

私たちは多くの信仰の先輩のように、またヨブのように強く勇敢に耐え忍び、必ず恵み、祝福し、あわれんでくださる神を待ち望まなければならない。→ヘブル 11:1

[12]「私の兄弟たちよ。何よりもまず、誓わないようにしなさい。天をさしても地をさしても、そのほかの何をさしてもです。ただ、「はい」を「はい」、「いいえ」を「いいえ」としなさい。

それは、あなたがたが、さばきに会わないためです」

ここでは「誓い」について語られるが、その理由はクリスチャンが迫害や苦しみの中にある時に、苦し紛れに神の御名をみだりに引用して誓うことがないようにとの戒めのためである。→出 20:7 軽々しく神の御名を引き合いに出して、誓うことは神に罰せられるところとなる。

ここで言う誓いとは、自分のことばを神の名を引いて権威づけようとする不用意な行為のこと。

本当の誓いとは、めったに必要なのないものであり、それゆえに価値があるものである。それなのに日常のささいなことにも何度も誓いというものを持ち出してくるならば、誓いそのものに価値がなくなり、それに当然払われるべき敬意というものが払われなくなってしまふ。

また、たとえ神の名を引き合いに出さず、天や地をさして誓ったとしても、それらはすべて神が造られ、神に属するものなので、神の名にかけて誓うことに等しいのである。それゆえ、「はい」は「はい」、「いいえ」は「いいえ」としなさいと勧められているのである。疑われるようなことを言うから、誓いをするという悪循環が生まれてくる。それゆえ、私たちが「はい」と言うこと、また「いいえ」と言うことは本当にそのとおりで信用されるような生き方をしなければならぬ。

私たちはクリスチャンとして生きていく上でさまざまな苦難に会うことがあっても、多くの信仰の先輩たちの模範にならぬ、忍耐をもって進んでいかなければならぬ。神はあわれみ深く、慈愛に満ちておられるお方であり、必ず私たちに助け祝福してくださる。そして日常生活において、「はい」を「はい」、「いいえ」を「いいえ」とする正しい生活を送り、人々に信用される者にならなければならぬ。